早稲田大学 オープンカレッジ　2024年11月09日

石神井川と王子の街～東京の小河川-２～

【寄藤 昂】

構成

１．石神井川　これまでの歩み　　1.1 概要　　1.2 流路をめぐる疑問　　1.3 分水路の建設

２．王子の街　明治～戦後　　2.1 江戸の行楽地　　2.2 製紙と印刷の街　　2.3 軍事施設とその後

３．石神井川と王子の街の現在～現地を歩くために　　3.1 ２つの緑地　　3.2 名主の滝公園

１．石神井川　これまでの歩み

1.1 概要

石神井川は幹線流路延長25.2km、荒川水系の一級河川。

水源は小平市花小金井南町にある小金井カントリー倶楽部敷地内の湧水。武蔵関公園の富士見池、石神井公園の三宝寺池・石神井池、豊島園池などからの湧水を合わせ、板橋区加賀から王子駅付近の音無橋にかけて音無渓谷と呼ばれる深い谷を形成する。

現在、渓谷部分はほとんどがコンクリートの垂直護岸となっていて、屈曲部は直線化、洪水対策としてコンクリート壁の高い堤防を設置、飛鳥山隧道（分水路）建設などで景観は大きく変わっている。

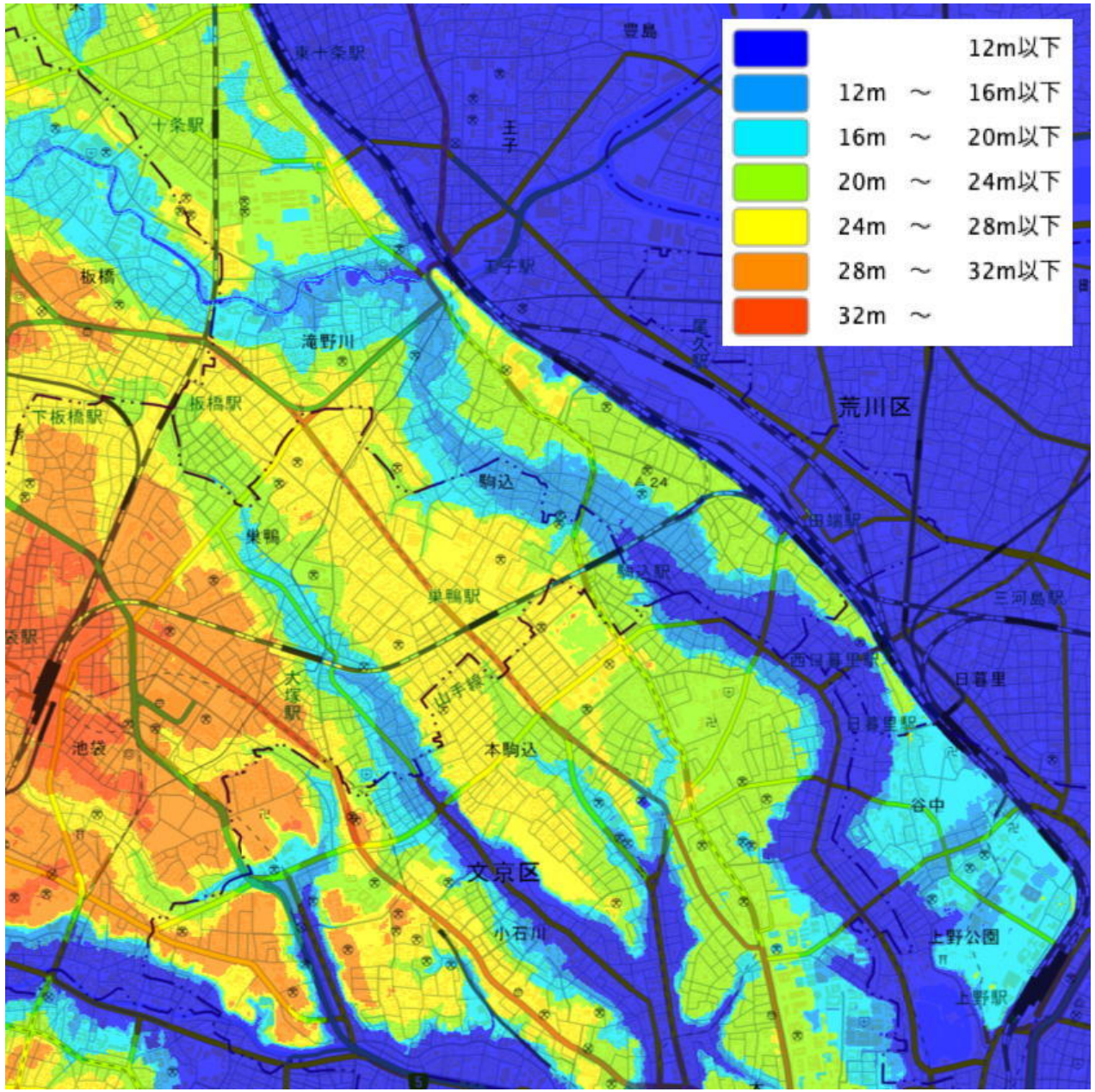
音無橋上流で流路が分かれ、王子神社下を流れる旧流路は「音無親水公園」として整備された区間（右の写真）を経て王子駅の下を暗渠で抜け、南東に進んで新流路と合流する。一方、新流路は飛鳥山隧道を抜けてJR東北線・新幹線を潜った地点で旧流路と合流、北東方向に転じ北区堀船三丁目で隅田川に合流する。

1.2 流路をめぐる疑問

地形起伏の詳細を示す右の図にも明らかなように、飛鳥山の西から本郷台と上野台の間の低地を経て不忍池まで、谷底平野と見られる地形が連続している。

このことから、かつての石神井川は飛鳥山で遮られて南に流れていたと推定されていて、その流路変更の時期・理由については、１.縄文海進期の海岸浸蝕による河川争奪だったとする説、２.戦国時代または江戸初期の人為的開削とする説、などがあって未だ結論は出ていない。

ただ筆者（寄藤）は下流部の深い河道の下刻がわずか数百年で形成されたとは考え難く、一方新たな河道を開削するほどの技術・道具が縄文期に存在したとは考えられないことから河川争奪（自然現象）によるものだったと考えている。

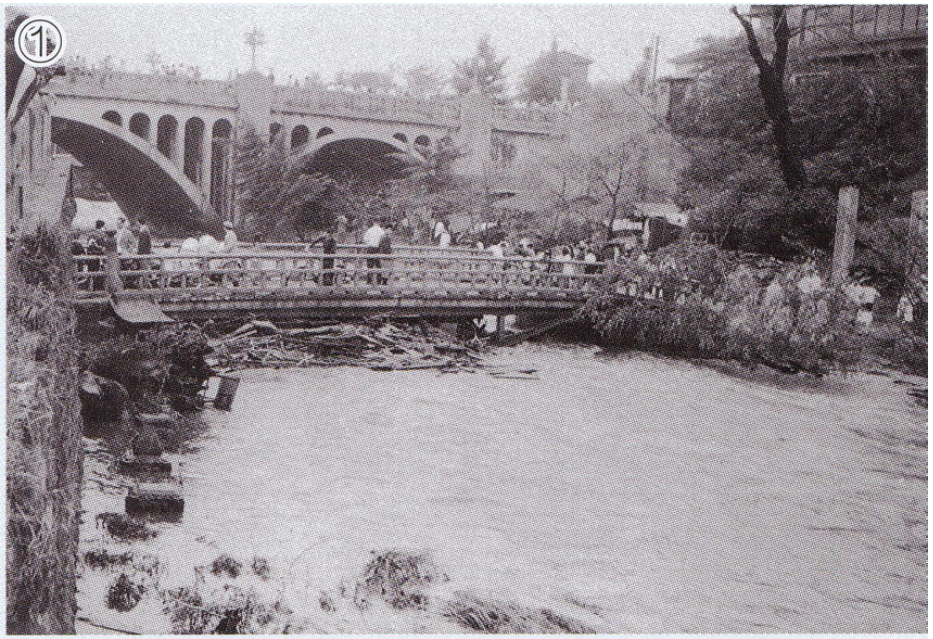


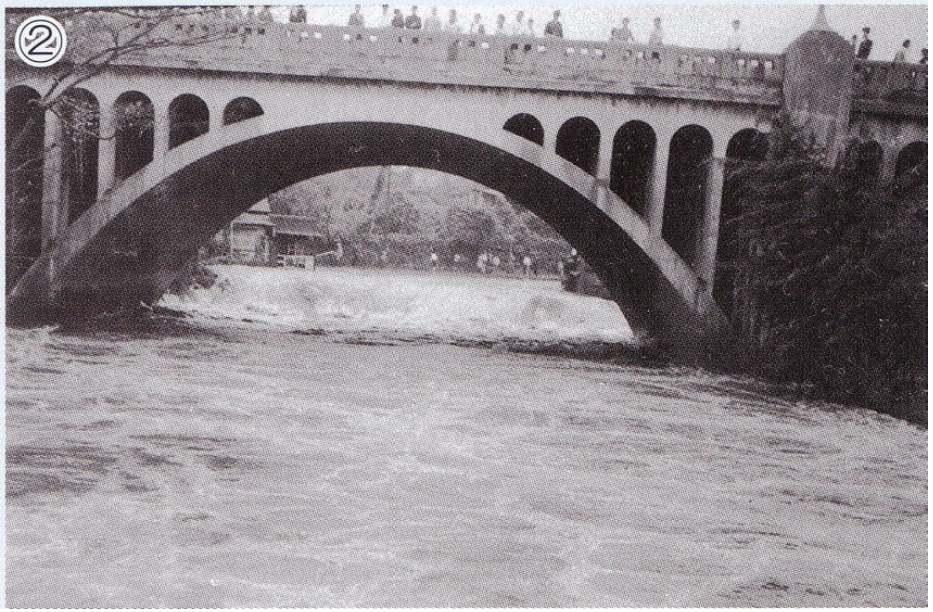
1.3 分水路の建設

1950年代後半から、石神井川においても上流・中流での市街地化が急速に進み、大雨の際には流量が急激に増加して洪水氾濫の危険が増していた。台地上から一気に荒川に流下しているとは言え、飛鳥山の横を抜ける箇所が狭窄部を形成しているため音無橋付近では洪水に見舞われることが重なり、特に1958（昭和33）年の狩野川台風では大きな被害を受けた。

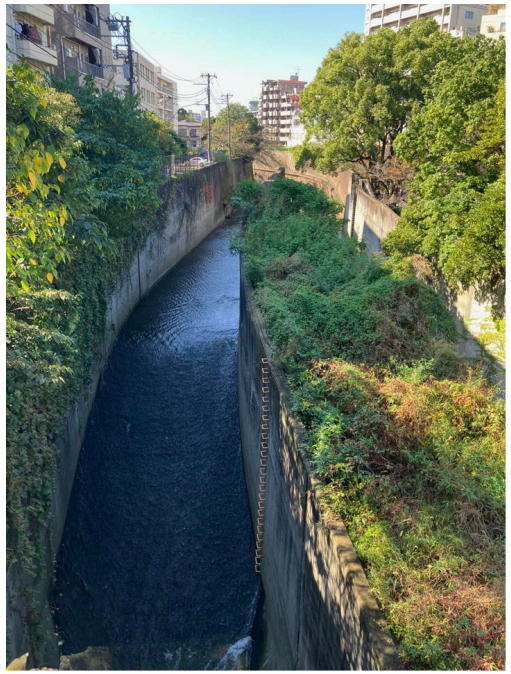
右の写真１は王子駅前から見た舟串橋（奥が音無橋）、写真２は舟串橋から見た音無橋。（『北区のKITA道』p.35）

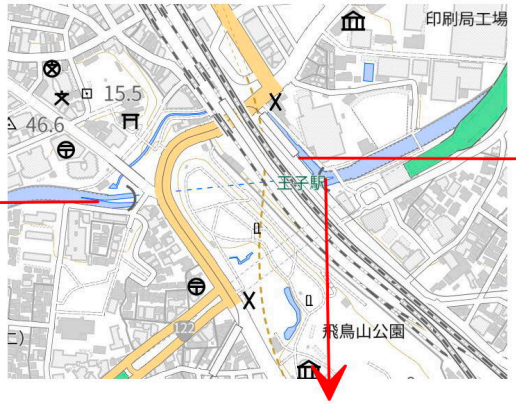
これを契機に石神井川の改修が進められることとなり、流路の直線化、護岸・堤防の整備に加えて飛鳥山の下を抜ける「飛鳥山分水路」が建設された。水路は、直径6.5mの２本の円形トンネルをシールド工法で二期に分けて整備、第一期工事は1968（昭和43 ）年に、第二期工事は1973（昭和58 ）年に完成している。（東京都建設局HP・飛鳥山分水路）





飛鳥山分水路の「呑口」（左）、「吐口」（中央下）、「旧流路」（右）2024年11月撮影





2．王子の街　幕末～戦後

2.1 幕末江戸の行楽地

飛鳥山の花　歌川広重　安政元年（1854）右上

王子音無川堰埭世俗大瀧ト唱　歌川広重　安政４年（1857）下

飛鳥山かわらけなげ　三代歌川広重　明治16年（1883）右下

（『名所物語 浮世絵に見る北区の近代』）

2.2 製紙と印刷の街

1873（明治６）年、現在の王子駅前の位置に「抄紙会社」（王子製紙）創設。続く1875（明治８）年には隣接地に「政府印刷局抄紙部」も設置された。

王子製紙の工場は1945（昭和20）年の空襲で焼失し再建されなかったが政府印刷局の方は存続、現在国立印刷局王子工場となっている。

王子周辺にはこれらに関連する化学薬品工場、印刷工場なども集中して行ったが、高度経済成長期以降その多くは移転、跡地は住宅団地等になっている。

この時代には、工場の煙は「近代国家の象徴」と受け止められ、浮世絵の題材にもなっていた。

「王子飛鳥山ヨリ製紙会社ノ真景」
有山定次郎　明治26年（1893）
（『名所物語 浮世絵に見る北区の近代』）

2.3 軍事施設とその後

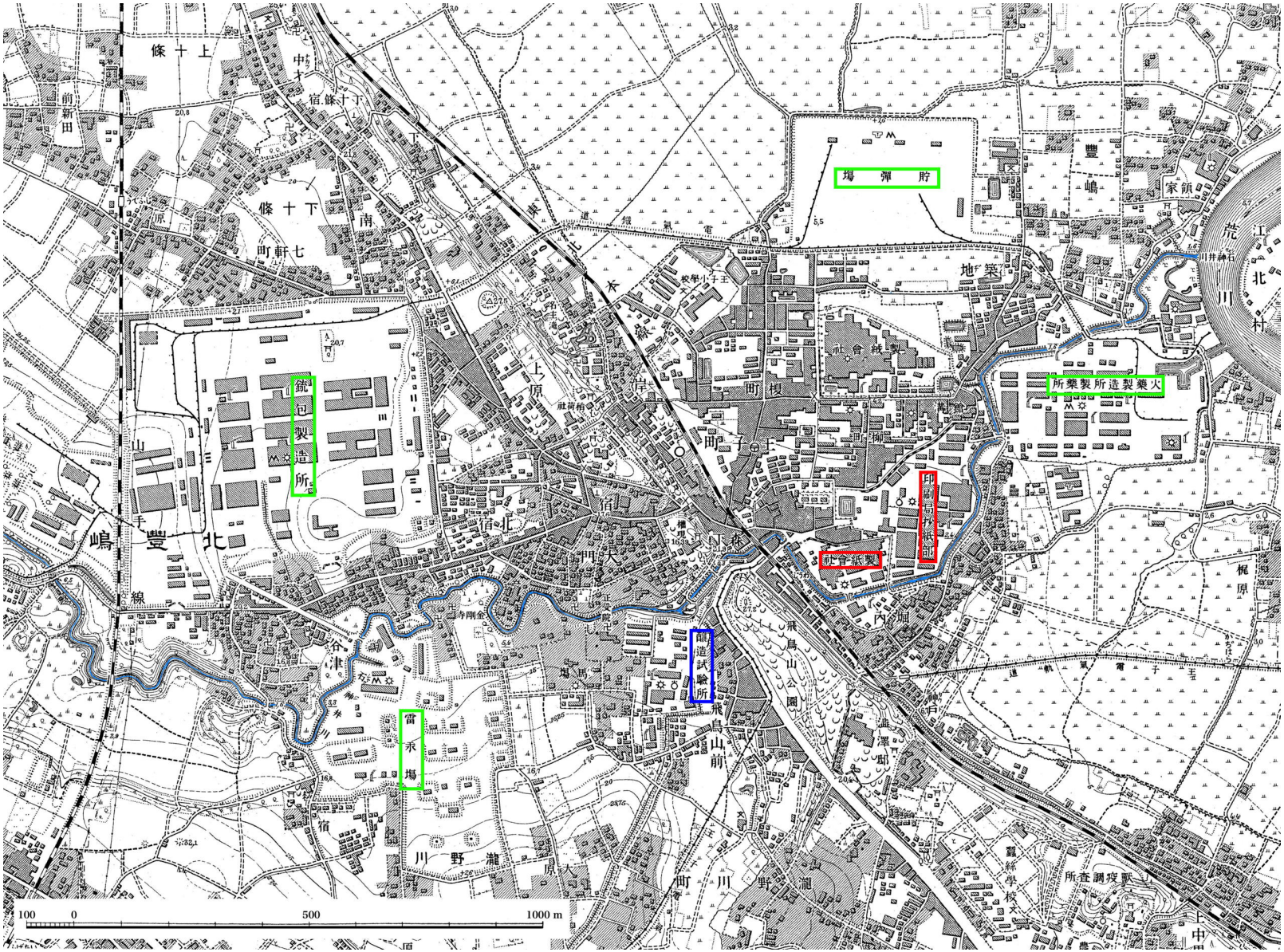
明治時代、現在の赤羽・十条・王子地域には多くの軍事施設が設置された。

王子周辺には、火薬、雷管、そして銃包（弾丸）の製造所や貯蔵庫が置かれた。中心となったのは1905（明治38）年に設置された「東京砲兵工廠銃包製造所」で、その後も整備が進められて第二次大戦期には「東京第一陸軍造兵廠」となっていた。

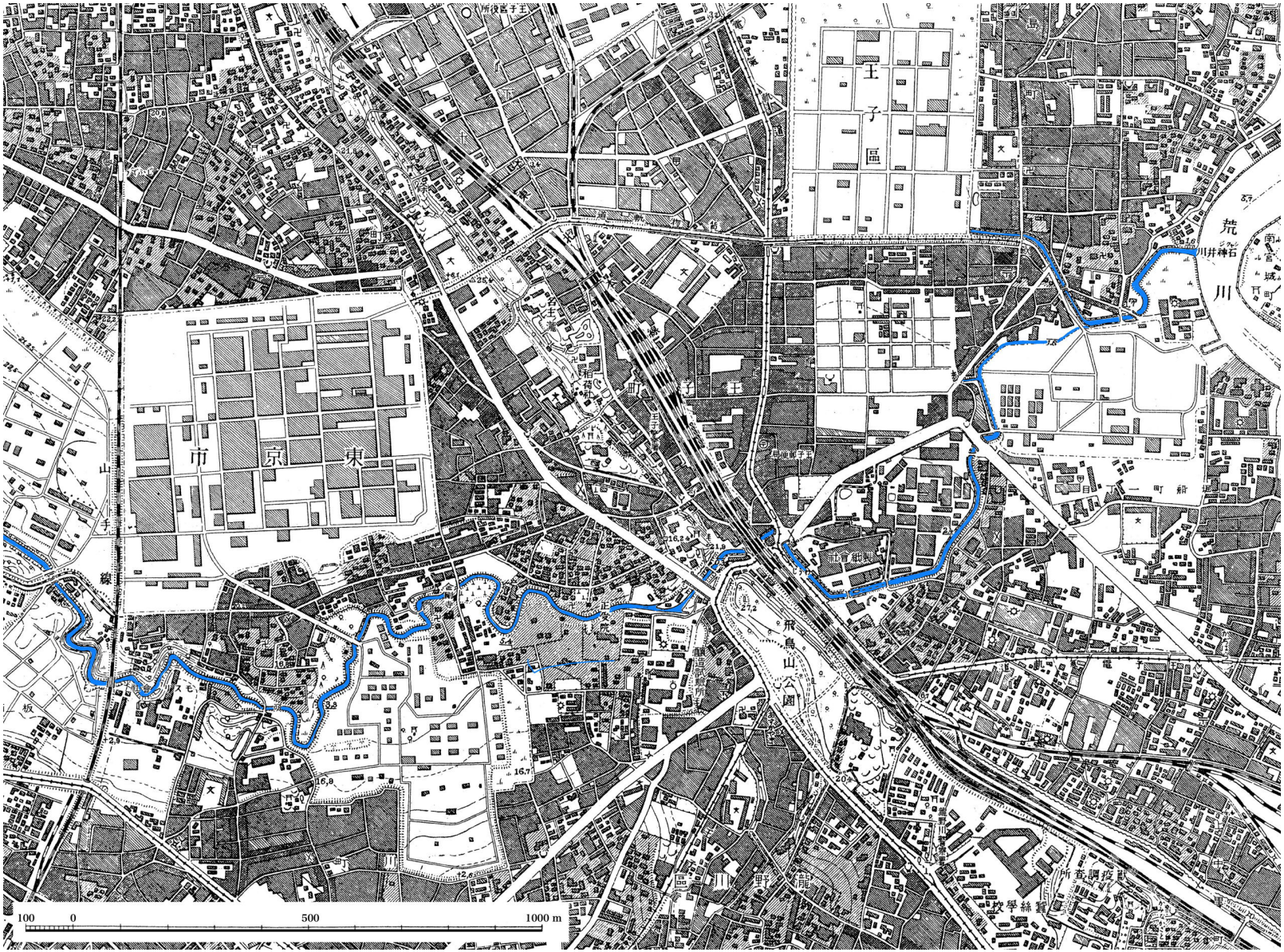
第二次大戦終結後、この施設は米軍に接収され、返還された後は自衛隊の駐屯地や公園・公共施設となっている。

2008年に建設された北区立中央図書館（右）は、赤煉瓦建物の一部を象徴的に保存・活用、またベトナム戦争当時「米陸軍王子野戦病院」とされた旧造兵廠火工廠の本部建物は1971年に返還され、1981年から「中央公園文化センター」（下）として公開されている。

1905（大正５）年 大日本帝国陸地測量部発行の１万分の１地形図「王子」の一部　＜着色は筆者＞



1939（昭和14）年 大日本帝国陸地測量部発行の１万分の１地形図「王子」の一部　＜着色は筆者＞



3．石神井川と王子の街の現在　現地を歩くために

1.音無親水公園
（石神井川旧河道）
2.石神井川分流点
3.石神井川合流点
4.音無さくら緑地
（曲流跡 ---> 公園）
5.音無もみじ緑地
（曲流跡 ---> 遊水池）
6.名主の滝公園
7.北区立中央図書館
（東京砲兵工廠 --->
米軍・自衛隊施設）
8.北区立文化センター
（陸軍造兵廠火工廠 --->
米陸軍王子野戦病院）
9.旧醸造試験所第一工場
（妻木頼黄の設計）